

国際交流員ダニエルの

KANGA  
KOURYUU

カンガ交流



## 故郷の「ワイルド・ライス」

私はオーストラリアに住んでいたころ、家族や友達、学校の先生からたくさんの植物について教わったことがきっかけで、オーストラリアに自生している植物に興味を持つようになりました。私の家の近所にはたくさんのマカダミアの木が自生していて、子どものころに実を焼いて食べたことを懐かしく思い出します。ほかに「Lilly Pilly (リリーピリー)」の木になるベリーや「Hakea (ハカエ)」の花の蜜はとてもおいしくて、子どもたちのお気に入りでした。このように自然豊かなオーストラリアは、マカダミアナッツやユーカリ油の生産が商業的に成功したため、企業などではここ数十年、自生植物の発見と開発により力を入れています。中でも、「Wild rice (ワイルドライス)」は多くの研究者が期待している植物の一つです。

### 見た目だけでなく、味にも優れた品種

オーストラリア産のワイルドライス(学名:「*Oryza rufipogon*」と「*Oryza meridionalis*」)は、大陸の北部にある湿地帯に豊富に生えています。

米粒の色はきれいな赤で、お皿に盛り付けるととても美しく見栄えがします。インスタ映えですね!それに加えて香りと食感も良く、栄養価は一般的な米(学名: *Oryza sativa*)と遜色ありません。ワイルドライスの食品適合性(商品として売り出せるか)や遺伝的変異(病気に強い品種か)の研究はまだ初期段階ですが、オーストラリアの目玉商品になる可能性が期待されています。



▲収穫したばかりの米粒(写真奥)と精米した米粒(写真手前)(提供: Jason Wilkes/Charles Darwin University, Australia)

### 良質な稲=先住民の工夫?

ワイルドライスは「野生の稲」という意味ですが、実は昔、数千年にわたって先住民アボリジニが栽培してきた植

## オージー・スラング・タイム

オーストラリアのスラングを学ぼう



"Stubby"

読み方 「スタッピー」

意味 「小瓶のビール」

「Stubby」とは、多くのオーストラリア人が好きな小瓶のビール(375ml)のことです。もともとは「短くて太い」という意味の形容詞で、この呼び名は昔、北アメリカで使われていたようですが、今ではカナダとオーストラリアでしか使われていないようです。ちなみに、オーストラリアにはこれと対照的な「Longneck(ロングネック=長い首)」というスラングもあり、「Stubby」の2倍のサイズの瓶ビール(750ml)を指します。

物の一つであるという説が提唱されています。ヨーロッパがオーストラリアを植民地化した影響でアボリジニの記録を辿れず、正確な情報を見つけるのが非常に難しいのですが、アボリジニはワイルドライスを収穫しただけではなく、どの種が一番良いかを見分け、選んだ種をまいて品種改良のようなことを行ったのではないかと考えられています。アボリジニと協力してワイルドライスで起業できれば、新たな雇用や産業を生み出せるかもしれませんね。

古くからオーストラリアの北部で進化したワイルドライスは、遺伝子を研究する中で、農薬と化学肥料を使わずに自然に育つことができ、病気への強い抵抗力を持っていることが判明しています。さらに、ワイルドライスは一般的なお米と同じイネ科に属するため、交配して病気や環境に強い品種をもし開発できたら、稲を栽培できる環境が増えたり、農薬を減らして環境への負担を少なくできたりするそうです。このようなことからワイルドライスは現在、世界的にも注目されている植物なのです。

皆さんどうでしたか? 将来オーストラリアのワイルドライスがスーパーマーケットなどに並んだら、ぜひ食べてみてくださいね。



▲ワイルドライスと魚を使った料理(提供: Jason Wilkes/Charles Darwin University, Australia)